

最近の  
話題から

## 動きはじめた希少野生動植物の保護回復事業計画

オオルリシジミは、草原を舞う青い翅の輝きが印象的なシジミチョウです。かつて東北・中部・九州の各地方に生息していましたが、今では長野県と阿蘇山系にしか残っていないとされています。県内では数十年前まで各地に生息していましたが、1990年代にほぼ絶滅に近い状態となり、現在は東御市と安曇野市が生息地として知られています。6月頃に成虫がみられ、農地周辺の人手の入った草地に生えるクララの花の穂に産卵します。草地の減少や乱獲、農薬散布などが衰退の原因とされています。

東御市（当時の北御牧村）では数年前、オオルリシジミの姿を野外ではみることができなくなりました。これを受けて地元住民などが結成した「北御牧のオオルリシジミを守る会」は、北御牧産のオオルリシジミを室内飼育し、野外に戻して復活させる活動を行ってきました。活動は農家・学校・企業などの協力を得て進められ、開始後2～3年後には野外での自然発生を確認、その後は個体数も増えて、今年にはほぼ1970年代後半の水準にあたる数百個体がみられる状態にまで回復しました。安曇野市では「安曇野オオルリシジミ保護対策会議」が国営アルプスあづみの公園内にオオルリシジミを復活させる活動を行っており、信州大学でもそのための研究が進められています。

オオルリシジミのような希少な野生生物の保護対策を進めるため、平成16年、長野県希少野生動植物保護条例が施行されました。この条例では、特に保護を要する希少野生動植物を知事が指定し、これらの種



オオルリシジミ（東御市で）

の捕獲・採取や販売・流通の規制、開発に際しての生息・生育環境への負荷の回避・低減のほか、これらの種の保護回復事業計画を策定することなどを定めています。これまでに指定希少野生動植物71種類が指定されており、このうちヤシャイノデ（シダ植物）・タデスミレ（種子植物）・イヌワシ（鳥類）・オオルリシジミ（昆虫）の4種の保護回復事業計画が策定されました。

これらの保護回復事業計画は、オオルリシジミで行われているような県民・地域主体の活動をバックアップし、その活動をさらに進めていくための指針となるようつくられています。この計画に沿った活動を行う団体は、「認定保護回復事業」として知事の認定を受け、条例で定める規制に関わる手続きを簡略化することができます。この6月には「ヤシャイノデ保全の会」の活動が初の認定保護回復事業として認定されました。タデスミレでは生育環境の森林管理のあり方などについて土地所有者など関係者のあいだで協議が進められており、イヌワシでは情報の管理・活用や生息環境整備のあり方などについて検討が行われています。

これらの種を含め、希少野生動植物のほとんどはその生態などに未知の面を残しています。環境保全研究所では、調査・研究などを通してこれらの計画の策定を支援してきました。今後も県民・地域主体の活動と連携しつつ、このような動きをさらに進めていきたいと考えています。

（須賀 丈  
kanken-shizen@  
pref.nagano.jp）

研究所日記

光化学オキシダント注意報が発令されました

近年、全国的に光化学オキシダント濃度が増加傾向にあり、光化学オキシダント注意報の発令地域も拡大傾向にあります。長野県でも5月23日に、県内ではじめて佐久地域を対象に光化学オキシダント注意報が発令されました。

この地域は、春から夏にかけて関東地方から高濃度の汚染気塊が流れ込むことにより、夕方から夜間に高濃度となる現象が以前からみられています。今年度、東信地域を対象に光化学オキシダントに関する実態調査を行っている矢先の注意報の発令でした。



大気汚染物質広域監視システム (そらまめ君)

この調査では、小諸市の大気常時監視局のほかに佐久市、佐久穂町、軽井沢町、南牧村にオキシダ

ント測定機を設置し、5月から8月末まで東信地域全域を対象に、面的な濃度分布を調査しています。また、5月から6月には大気環境測定車を軽井沢町に設置し、オキシダントだけでなく、窒素酸化物や浮遊粒子状物質等光化学オキシダント発生に関わる物質の測定を行いました。現在は、オキシダント測定機の点検と観測データの確認のため、月2回、交代で各観測点を巡回しています。

今回の調査データをもとにオキシダント注意報の発令をよりの確なものにしたいと思います。

なお、県内を含め全国の常時監視結果の速報値や光化学オキシダント注意報等の発令状況などは環境省の大気汚染物質広域監視システム(そらまめ君)で提供されています。 URL : <http://soramame.taiki.go.jp/>



大気環境測定車「あおぞらⅢ」

(町田 哲 kanken-hozen@pref.nagano.jp)

2008 環境フェア in 佐久に参加しました

「2008 環境フェア in 佐久」が「佐久からはじめる、環境を感じ、考え、行動する地域づくり」をスローガンに第46回佐久鯉まつりと併催してこどもの日に開催されました。本環境フェアは屋外で開催され、当日は五月晴れとはいかず、あいにくの曇り空で一時雨も降りましたが、環境保全研究所は「身近な科学と環境問題」をテーマに参加しました。研究所の2つのブース「雨はどのくらい酸性?」、「紫外線ってなあに?」には沢山の親子づれが訪れました。雨の起電力でオルゴールが鳴ったり、見えない絵の具で描いた絵が曇り空ながらも紫外線により浮き出る様子に子供たちは驚きの声を上げたり感動していました。

と き：2008年5月5日(月) 9:30~15:00  
 ところ：佐久市駒場公園

(企画情報課 kanken@pref.nagano.jp)



紫外線で色が出た、上手に描けたでしょ



親子連れで混雑している研究所ブース